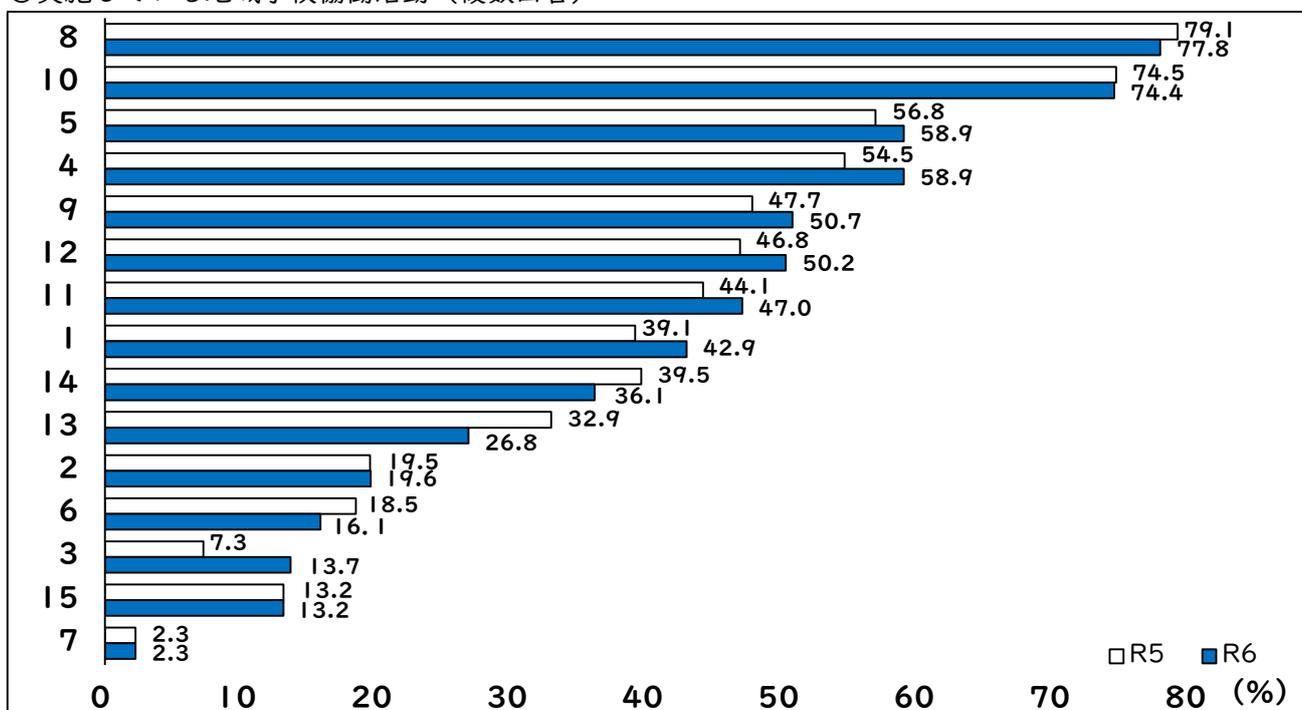


令和6年度「地域と共にある学校づくり」に関する実態調査結果

学校園について

地域学校協働活動について

◎実施している地域学校協働活動（複数回答）



- | | |
|------------------------------------|-------------------------------------|
| 8. 草刈り・剪定作業・花壇整備・農園作業 | 1. 家庭科・理科・体育などの実習・実験・指導補助 |
| 10. 登下校の見守り | 13. 部活動の指導(中学校・義務教育学校後期課程・高等学校) |
| 5. 各教科の授業・総合的な学習(探究)の時間における外部講師の活用 | 2. 校外学習等の引率補助 |
| 4. お話し会等の読み聞かせ | 6. クラブ活動における外部講師の活用(小学校・義務教育学校前期課程) |
| 9. 本の貸し出し・図書室の整理 | 15. 地域課題の解決・まちづくりへの参加・参画 |
| 12. 放課後の学習支援・体験活動 | 3. 特別な配慮を必要とする児童生徒への指導補助 |
| 11. 学校行事の補助 | 7. 校内の消毒作業 |
| 14. 地域行事等への参加・参画 | |

※6については小学校、義務教育学校(前期課程)をもとにした割合です。

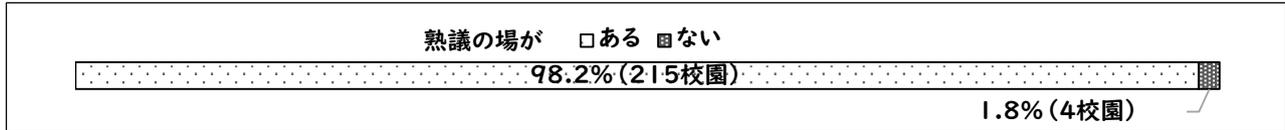
※13については中学校、義務教育学校(後期課程)・高等学校をもとにした割合です。

○各学校園で実施されている地域学校協働活動の割合が全体的に増加しています。8「草刈り・剪定作業・花壇整備・農園作業」や10「登下校の見守り」といった校外での活動を実施している割合は昨年度同様に高くなっています。また、3「特別な配慮を必要とする児童生徒への指導補助」の割合が大きく増加しています。

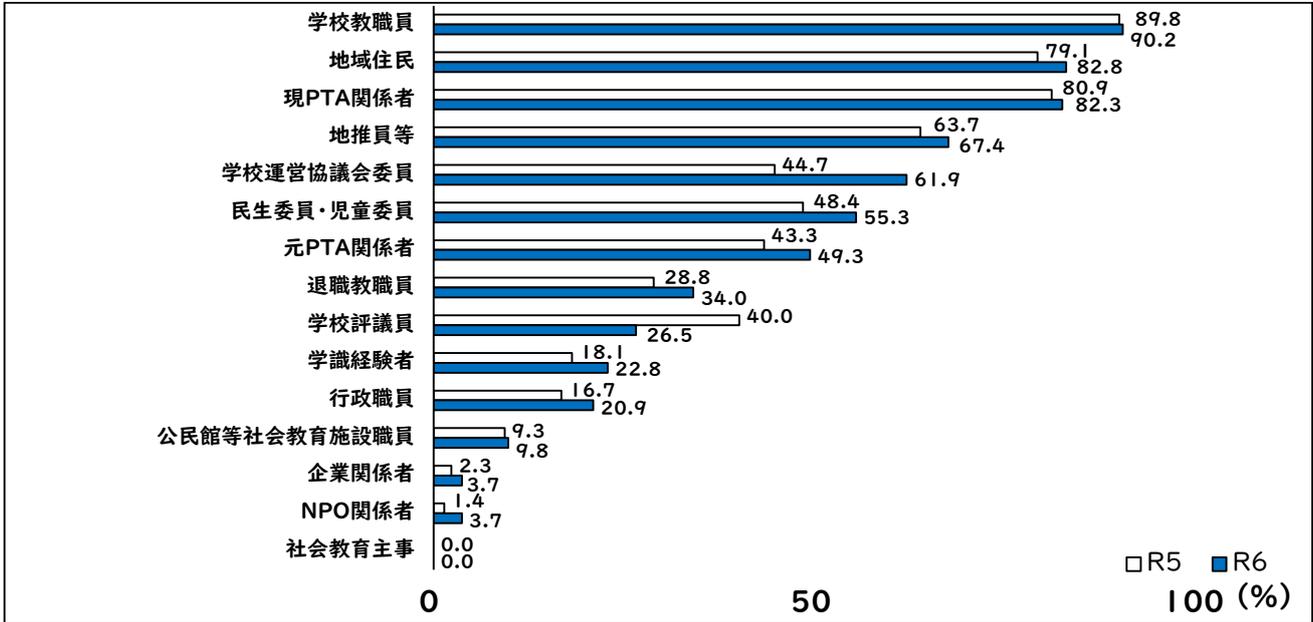
「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた取組が増加しています。

- 各学校園で実施されている地域学校協働活動の割合の全体的な増加により、学校と地域の連携・協働体制のさらなる充実がうかがえます。これまでの地域との協働活動の歴史を大切にしながら、教育課程に関する協働活動も実施することで、学校と地域が目標を共有し、連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む「社会に開かれた教育課程」の実現につながる取組の実施をお願いします。

◎学校と地域が、子どもの教育課題や地域の課題について話し合う会議（熟議）の場がありますか。

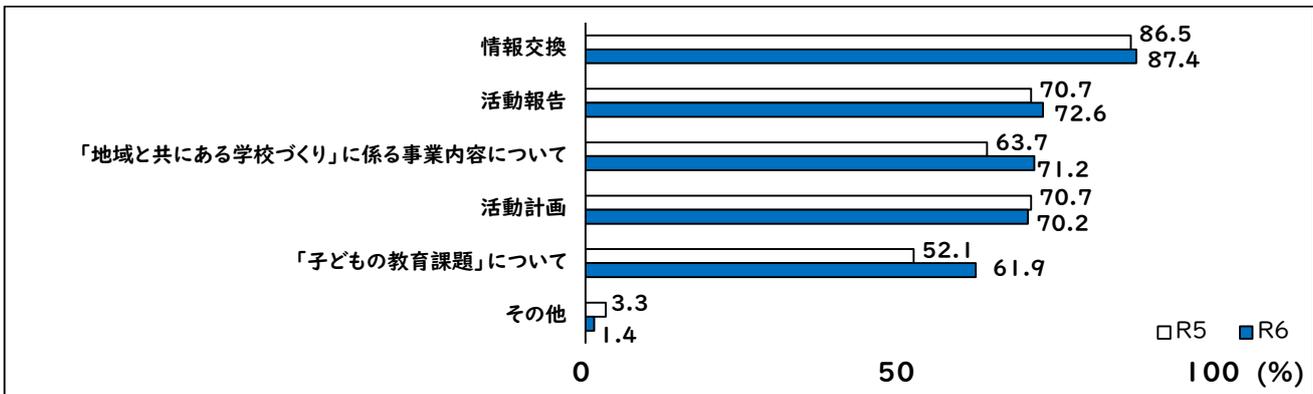


◎会議の参加者の属性（複数回答）



○コミュニティ・スクール導入とともに、学校評議員にかわり、学校運営協議会委員の参加が増加しています。

◎会議の議題（複数回答）



○「情報交換」や「活動報告」だけでなく、「子どもの教育課題」について議論した学校園の割合が昨年度より約10ポイント増加しています。

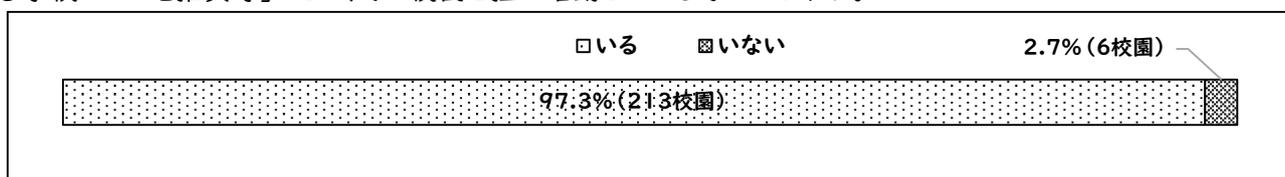
◎学校と地域が議論し、共有した主な「子どもの教育課題」

- | | | | |
|-----------|-----------|---------|---------------|
| ○規範意識の醸成 | ○基礎学力の定着 | ○キャリア教育 | ○学力・体力の向上 |
| ○読書活動の推進 | ○登下校の安全 | ○ICT教育 | ○不登校児童（生徒）対応 |
| ○あいさつ | ○自主性 | ○主体性 | ○児童（生徒）支援のあり方 |
| ○基本的な生活習慣 | ○地域とのつながり | ○自尊感情 | ○ふるさと学習 |
| ○SNS等の使い方 | ○防災教育 | | |

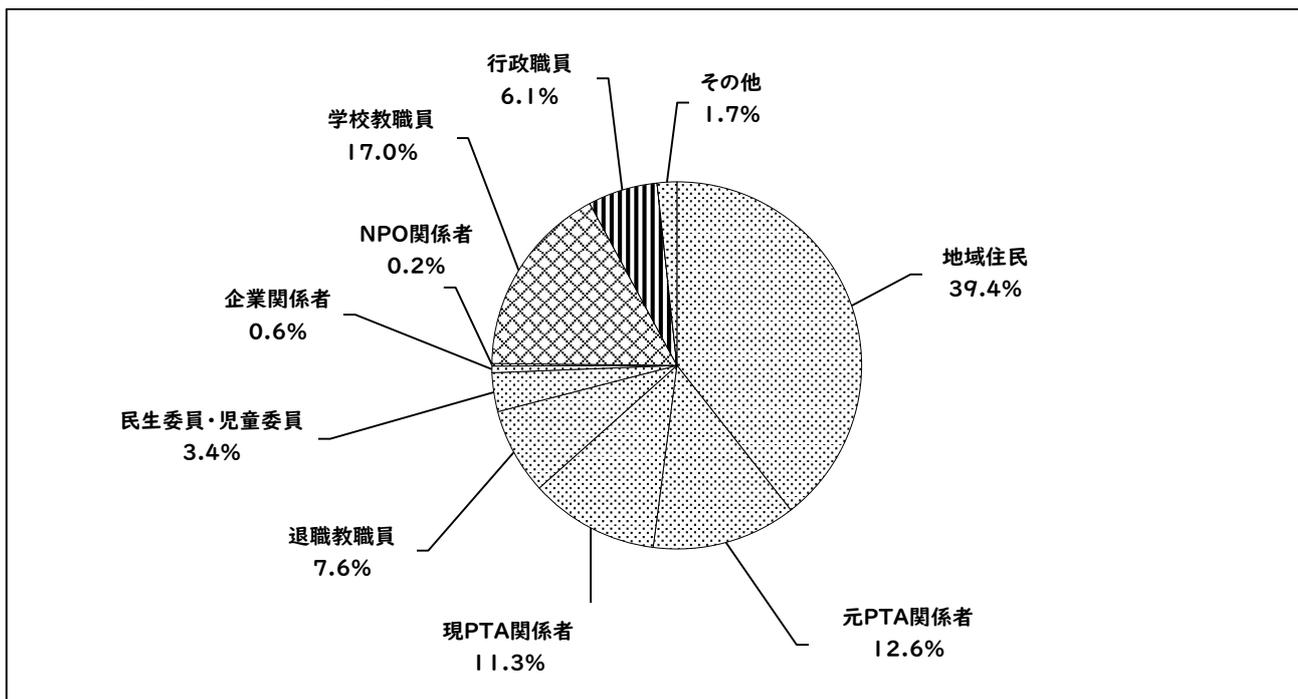
課題解決に向けた「学校と地域での目標の共有」、「共有した目標の実現に向けた取組の実施」をお願いします。

- 学校や地域の現状により、会議で取り上げられる議題は多岐に渡ります。子どもたちや地域の現状を基に「子どもに身に付けさせたい力」を熟議し、学校と地域で目標を共有することが大切になります。様々な立場の方が、多様な視点から会議に参加することで、熟議が深まります。
- 会議の参加者の属性の中で「地推員等」の割合が増加しています。熟議により共有された目標の実現に向けた取組を行うにあたって、学校と地域をつなぐ役割を担う地推員等は欠かせない存在です。

◎学校には「地推員等」として、その役割を担い活動している方はいますか。



◎地推員等の方の職種・役職等<のべ476人中>

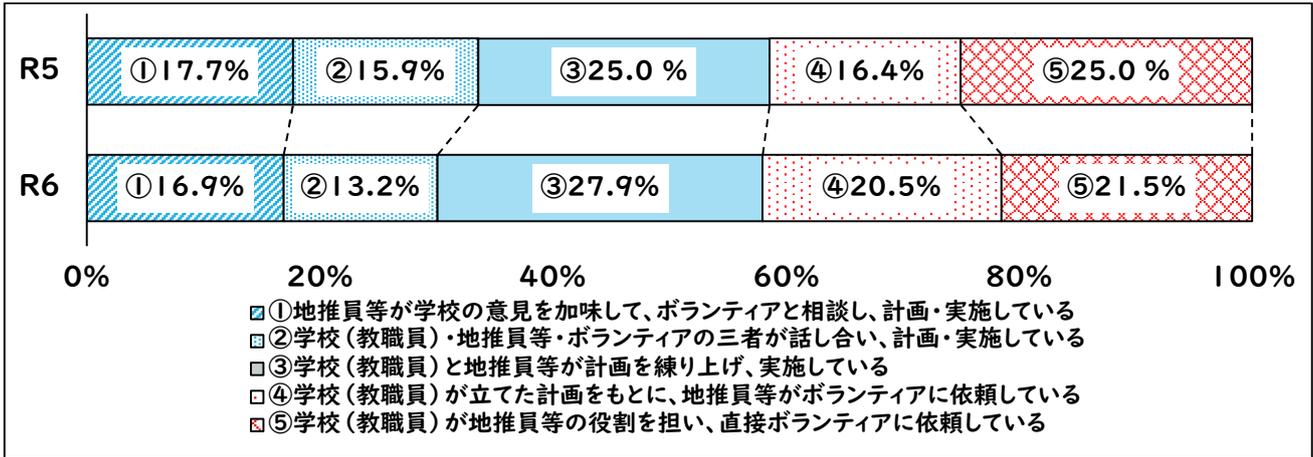


○地推員等として、その役割を担い活動する方は地域人材が76.8%・366人（地域住民～NPO関係者、その他）、学校教職員が17.0%・81人、行政職員等が6.1%・29人（行政職員、社会教育主事）います。（昨年度：地域人材76.5%・346人、学校教職員17.5%・79人、行政職員等6.0%・27人）

◎学校に「地推員等」として、その役割を担い活動している方がいない主な理由

- 地推員等に適した人材を見つけることができていないため。
- 絶対的な人数が少なく、他の役職と掛け持ちになってしまうため。 など

◎地域学校協働活動の計画・実施に際して、主にどのような手順で進めていますか。

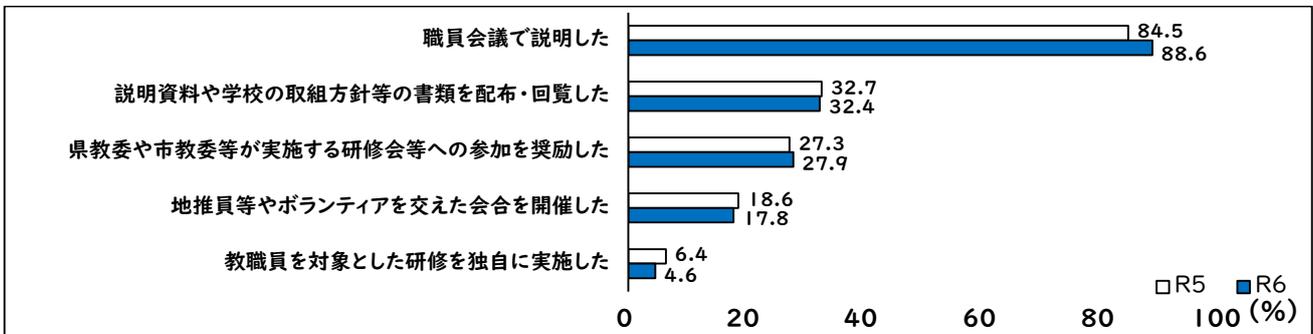


○③「学校(教職員)と地推員等が計画を練り上げ、実施している」の割合が最も高くなっています。①～③のように地推員等が地域学校協働活動の計画または実施に関わることが活動の充実につながります。

◎教職員が地推員等の役割を担っている主な理由

- 地域で務めてくださる人材を見つけるのが困難なため。
- 人材がいても、その他の役職等があり、地推員等の役割を引き受けてくれないため。
- 学校の課題等を考慮し、必要に応じて依頼をしているため。

◎地域学校協働活動に対する教職員の理解を深めるために、どのようなことを行いましたか。(複数回答)



○「職員会議で説明した」の割合が昨年度同様に最も高くなっています。

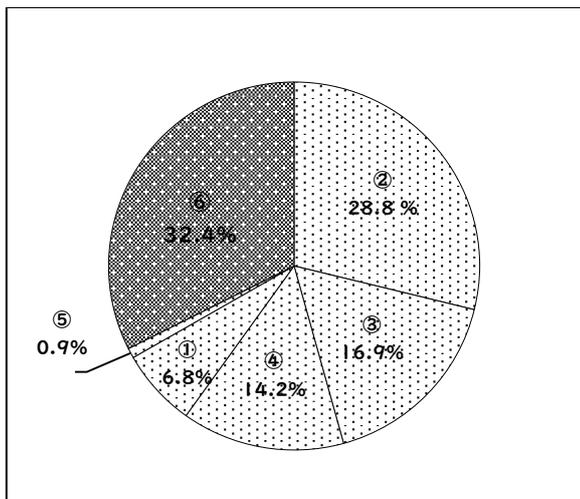
◎ボランティア募集の際に行っている工夫について

- 学校向け連絡アプリによる保護者等への配信。
- 募集方法を1つに絞らず、自治会の回覧板により募集チラシの回覧、X(旧Twitter)での発信、グループLINEの活用、口コミ等、様々な世代の方が触れられる媒体を活用。
- 教育実習生や卒業生に対する直接の声かけ。
- ボランティアの方々が参加しやすいような時間設定。

持続可能な取組とするために、地域人材による地推員等の配置と活動の場の確保、事業に対する教職員の理解を深める取組をお願いします。

- 地域や学校のことを良く知る地域人材が、地域学校協働活動推進員等の役割を担うことで、地域学校協働活動を行う際の連絡・調整がスムーズになり、教職員の異動にも左右されない持続可能な体制づくりを行うことが可能になります。
- 教職員が研修会、地推員等やボランティアの会合へ参加することにより、地域学校協働活動に対する理解を深め、学校と地域の協働体制の構築を目指していくためにもとても大切になります。

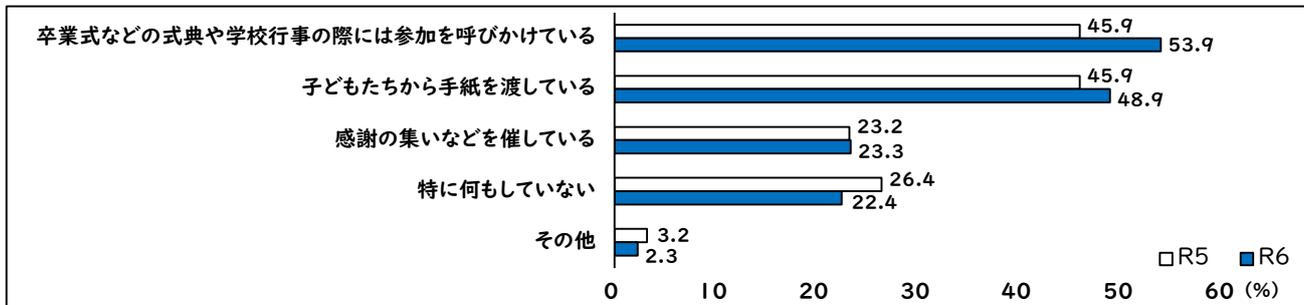
◎学校内に、地域学校協働活動に関わるボランティア等の打ち合わせや活動後の振り返り(評価や反省等)を行う場所がありますか。



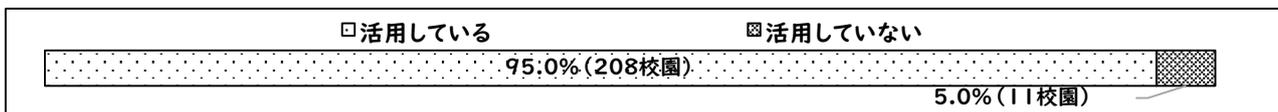
- ② 別目的と兼用だが部屋を確保している
- ③ 活動場所や隣接する部屋を使用している (図書ボランティアが図書室を使用するなど)
- ④ 校長室を利用している
- ① 「地域ルーム」などボランティア等が使用する専用室がある
- ⑤ 職員室の応接スペースを利用している
- ⑥ 特に決まった場所(部屋)を用意していない

○地域学校協働活動に関わるボランティア等の方々
が打ち合わせや活動後の振り返りを行う場所がある
学校園の割合は67.6%あります。(①+②+③
+④+⑤) (昨年度は61.6%)

◎児童生徒たちが、活動実施日以外にボランティアの方に接する機会を設定していますか。(複数回答)



◎地域学校協働活動の実施に際した「奈良県学校・地域パートナーシップ事業補助金」の活用状況



○子どもたちがボランティアと対面する機会を設定した学校園の割合は増加しています。特に、ボランティアの方が子どもたちの成長を感じることができる「卒業式などの式典や学校行事への参加」を呼びかけている学校園が増えています。

子どもたちや教職員とボランティアの親しい関係づくりが、ボランティアの方々のやりがいや自己有用感に繋がり、地域学校協働活動を深化・継続させることができます。

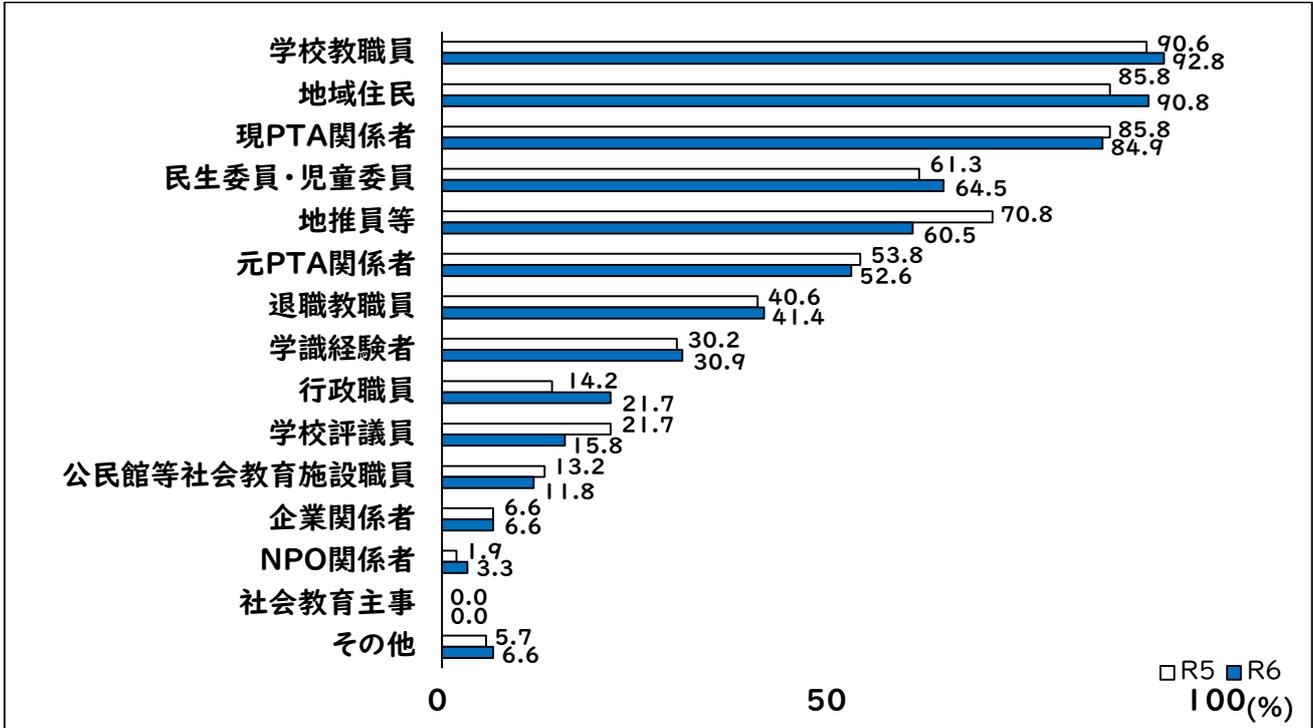
- 日頃の感謝の気持ちを手紙等で伝える取組やボランティアの方々が普段接している子どもたちの成長を感じることができる行事等へ参加することは、ボランティアの方々のやりがいや自己有用感につながります。また、打ち合わせや振り返り等を行う場所(部屋等)の確保もお願いします。

コミュニティ・スクール（学校運営協議会）について

◎学校運営協議会を設置していますか。

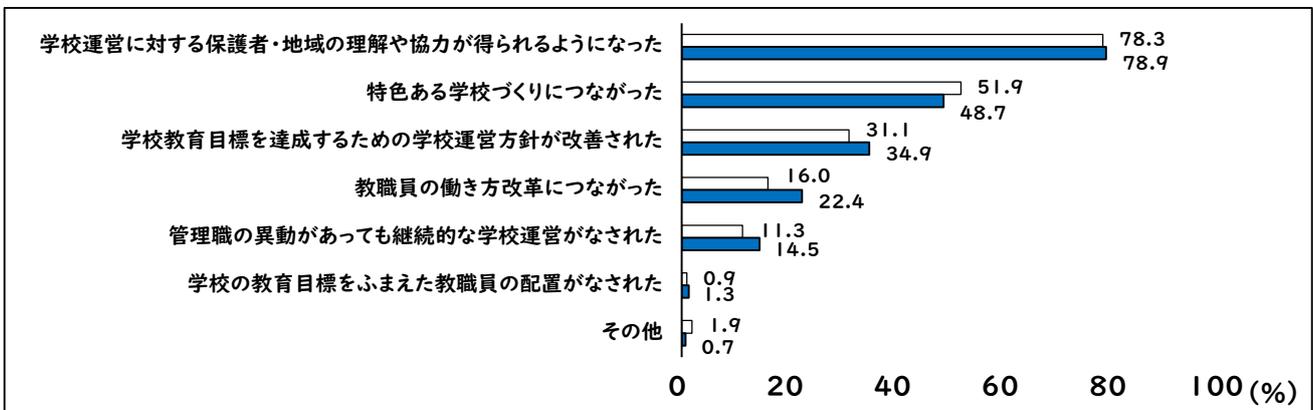


◎学校運営協議会委員の属性（複数回答）



○学校運営協議会委員には「学校教職員」、「地域住民」、「現PTA関係者」の方が多くいます。昨年度に比べ、学校運営協議会委員として学校運営協議会に参加している「地域学校協働活動推進員等」の割合が減少しています。

◎コミュニティ・スクールを導入することで得られた効果



○コミュニティ・スクールを導入することで「学校運営に対する保護者・地域の理解や協力が得られるようになった」と効果を感じている学校園の割合が最も高くなっています。

◎学校運営協議会で行われた協議内容について(一部抜粋)

- 学校経営方針の意見交流と承認について
- 特色ある学校づくり、学力向上のための取組について
- 登下校時における防犯対策、熱中症対策について
- 自己有用感の醸成と生徒指導諸課題への取組について
- 制服改定について
- 地域に根ざした総合的な学習の時間の成果と課題について
- 防災について
- 学校行事等の精選について

◎コミュニティ・スクールを導入することで期待していること、または導入に際して不明な点や不安に感じる点(一部抜粋)

<期待していること>

- 子どもたちのより良い成長
- 特色ある学校づくり
- 学校の諸課題の解決
- 自律的・自発的な学校支援
- 地域との強い繋がり
- 地域との交流機会の増加
- 教育活動の活性化
- 地域の教育力の向上
- 社会総掛かりでの子どもへの教育 など

<不明な点や不安に感じる点>

- 学校運営協議会委員の役割の認識
- 委員の人選
- 組織づくり
- 学校の負担
- 地域人材の発掘・確保
- 運営方法
- 円滑な連携・協働体制づくり など

その他(学校園からの意見)

- 地域の方の支援や協力があって学校を運営できている部分も多くあります。地域の方たちの協力のおかげで、子どもたちの安全が守られたり、学校環境が整ったりしています。
- 地推員等を中心にあくさんの地域の方々からご協力をいただき、学習環境の整備や児童の安全を守るための支援等をいただいています。また、教職員の働き方改革へもつながっており、教職員の業務改善ができました。
- 今年度から学校運営協議会が始まりました。協議の場では子どもたちの成長を支えていくために、学校と地域がどのように連携・協働できるのかについて、今まで以上に活発な意見交換ができました。
- 軌道に乗るまでは、問題点や煩わしさなどを感じることもありますが、協力体制が整いはじめ、組織として動き出すと地域がとても心強い存在であると感じています。卒業してからも地域で暮らしていく子どもたちが地域の人たちと普段の生活から関わりをもち、お互いの理解の深化を行うために、「地域と共にある学校づくり」は大切だと思います。

「コミュニティ・スクール（学校運営協議会）」の導入・充実と「地域学校協働活動」との一体的な推進をお願いします。また、「地域と共にある学校づくり」の深化・充実のため、これまでの学校と地域による連携・協働を大切にしながら、持続可能なものとするための取組へとつなげていただくようお願いします。

- 「コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）」と「地域学校協働活動」を一体的に推進していくことは、「地域と共にある学校づくり」を持続可能なものとするために有効です。導入・充実に向け、これまでの地域との連携・協働の歴史を大切に、協働体制の構築をお願いします。
- 学校運営協議会の熟議において設定・共有された「育てたい子ども像」や「目指すべき教育のビジョン」を反映した地域学校協働活動を実施することが重要です。
- コミュニティ・スクールを導入している学校園では、様々な立場の方が学校運営協議会の委員として学校運営に参画しています。今後も学校と地域がともに知恵を出し合い、学校運営に反映させることで、地域と協働しながら子どもたちの豊かな成長を支える「地域と共にある学校づくり」を推進していただきますようお願いいたします。
- 地域をよく知る地域人材が地推員等を担うことで、学校や地域の実情に応じた地域学校協働活動に関わる円滑な連絡調整を図ることができ、持続可能な連携・協働体制の整備につながります。学校・地域・市町村教委による連携を今後も密にしてください。
- 地域学校協働活動として実施している様々な取組を、「協働」または「子どもたちの課題解決に有効であるか」という視点で見直し、スクラップ&ビルドしていくことが、学校運営を改善する観点からも必要です。
- 県教育委員会では、各学校園において「地域と共にある学校づくり」をさらに推進していただけるように教職員・学校運営協議会委員・地推員等・行政職員等を対象にした各種研修会等を今後も実施する予定です。また、県内で行われている学校と地域が協働した取組を取材させていただき、県教育委員会事務局人権・地域教育課のホームページにて紹介させていただきたいと思っています。各学校園においても引き続き、地域の方と熟議をする機会を設けたり、地域回覧・学校ホームページ等を活用した広報活動を行ったりしていただきますようお願いいたします。